

ピカソ、チューリヒに行く！

2010年10月19日

愛知県美術館が所蔵しているピカソの「青の時代」の作品《青い肩かけの女》（1902年）が、スイスのチューリヒに行っています！



△ チューリヒの街並み



△ チューリヒ美術館

先週 15 日にチューリヒ美術館で始まった「ピカソ——1932 年の初美術館展」に貸し出しています。このピカソ展は、単なるピカソ展ではありません。1932 年にピカソ自身が、それまでの自分の仕事の各段階を代表するような作品を選定し、それらがその年、チューリヒ美術館でまとまって展示されたのですが、それはピカソにとって、美術館という場での最初の個展となりました。その歴史的な展覧会を、チューリヒ美術館が開館 100 周年の機に再現しようとした注目の展覧会なのです。愛知県美術館所蔵の《青い肩かけの女》も 1932 年のピカソ展に含まれていたため、今回チューリヒ美術館から貸出依頼を受け、とても有意義な展覧会ということで、貸し出すことにしました。



△ 《青い肩かけの女》の展示作業

今回のピカソ展には、1932 年に出品されていた約 230 点のうち、全部で 76 点があります。ちょうど 1/3 が集まった計算ですから、大したものだと思います。貸出館には、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ワシントン・ナショナル・ギャラリー、テート、パリ国立近代美術館など、世界の大美術館がいくつも名を連ねています。日本からは、当館のほかに川村記念美術館、大原美術館も、それぞれ 1 点貸し出しています。



△ 《青い肩かけの女》の裏面に貼付されている1932年のピカソ展のラベル



△ 新たに貼付された今回のピカソ展のラベル

今回の貸出しに際して作品の裏面をチェックしたところ、1932年のピカソ展のラベルがあることが確認できました。ピカソに限らず、展覧会に作品を貸し出すと、その展覧会とその作品の情報（展覧会名、会期、会場名、作者名、作品名、制作年 etc.）の入ったラベルを貸出先が用意していて、それを裏面に貼ることがあるのですが、こういったラベルを見ると、その作品が背負っている歴史が、生々しく、そ

して重々しく伝わってきます。今回の出品に際してもラベルを貼り付けました。今はまだ真新しいですが、これも何十年かすれば貫禄が出てくることでしょう。



△ チューリヒ美術館 現在ピカソ展が開催されている棟

「ピカソ——1932年の初美術館展」は、チューリヒ美術館で来年1月30日まで開催されています。チューリヒに行かれる方はお見逃しなく！

(T.O.)

展覧会記事：

[http://www.tagesanzeiger.ch/kultur/kunst/Beim-Aufhaengen-von-Meisterwerken-/story/25801764?dossier\\_id=737](http://www.tagesanzeiger.ch/kultur/kunst/Beim-Aufhaengen-von-Meisterwerken-/story/25801764?dossier_id=737)